

星辰

No.95
 長野市大字南長野
 幅下692の2
 TEL.026-217-5858
県政だより
 発行責任者
 県民クラブ・公明大北
 宮澤敏文
 E-Mail: kcrminclub
 @ily.ocn.ne.jp
 星辰とは、変わるこ
 とのないもの、理想

**地域の魅力づくり
 食の王国北アルプス山麓
 自然の魅力に食を加える**
 コロナ禍を乗り越え
 新しい支え合い創造を!!

宮澤県議動く



新たな挑戦!! 食の王国北アルプス山麓宣言

左から JR 東日本企画村山部長、宮澤県議、滝沢振興局長、野池県観光機構専務、丸山県観光部誘致課長、塩島北アルプスブランド運営委員

大町商工会議所では、「コロナの影響で廃業を考える事業者は30%と発表した。観光業、飲食業、農業、商業と冷え込みは、戦後経験したことがない状況である。急遽開催された宮澤県議と振興局と白馬村・小谷村のホテル、索道代表者との意見交換会では「生活が続けられない」「今までにこんなことはなかった」等、深刻な意見が続出した。県は一月十四日臨時県議会で、こ入れ策として八五六億円を用意し、観光部関係で三〇億円を対策費として決めた。令和四年度予算ではwithコロナを生き抜くために、過去最高額を決定し、新しい時代の潮流を乗り越える体制を引いた。

業委員会、JA大北で構成)が中心となり「食の王国北アルプス山麓宣言」がされた。「女性の視点を第一にすること」を基本におき、第一次ステージを「新たなツールとしてスイーツ」と定め、第36回フランスデザート選手権プロフェッショナル部門優勝者である田中真理さん、フランスで活躍された白沢朋子ANAホリテイリゾートパティスリーシェフらを審査員とし、スイーツ分野の開発に入った。第一次審査は食の信ぴょう性がチェックされ、二次審査は物語性、獨創性、将来性が審査された。秋に第二回が企画され、JR東日本企画と連携して、首都圏等へ発表していく体制がつくられた。



2月大雪の中で白馬ラネージュホテルで開催された第1回スイーツ審査会
 田中委員長始め真剣そのものであった。

審査委員長紹介

田中 真理

2006年フランスで開催された「第32回フランスデザート選手権」プロフェッショナル部門で優勝し、帰国。青山「ブノア」を経て同グループを退社後、2008年デザート・プランナーとして独立。レストランへのレシピ提供や技術向上、製菓学校での講師を行うなど、幅広いフィールドで活躍する。

小谷村議会と宮澤敏文県議
 大系線北部(南小谷く糸魚
 川間)の継続に向け、長野
 県へ対応を要請



今冬、十二月一月二月で279本の電車が運休し、このままでは住民の生活や観光路線として大系線北部がなくなってしまう。

赤字路線ではあるが、平成七年七月の豪雨災害ではスタスタになった路線を長野県が36億円を超える費用(新潟県区は420億)で復旧して30年と経たない。難工事を乗り越え完成した世界遺産的にも評価する鉄道であること等、村議から次々に述べられ熱い陳情となった。



天真爛漫な白馬高校生の笑顔
 白馬五輪で大活躍した白馬高校OB。白馬小谷で組合立で創設して70年を迎える。9年前の廃校の危機を宮澤県議や太田前村長、松本前村長らの努力で存続した。(全国から生徒を募集する国際観光学科の特別授業後の交流)



飲食店やコロナ禍で苦しむ事業者を助けてください。
 白馬小谷地区の飲食店の皆さんの切実な要望で交付金を実現する宮澤県議と滝沢局長

中村氏 大北地域の農業は米の比率が70%（県は15%）と高く、コメ以外の農産物振興は他地域と比べ悪い。人口減少、新型コロナ等の影響で米価は△2000/60kgの14000円を切っている。また、全農長野の努力で長野県の米はうまいことから下げ率が小さくなっているが、千葉県のコシヒカリは9000円台/60kgとなっている。



JA大北中村代表理事専務は、農協は将来をかけて、米70%体制からの脱皮を本気で取り組むことを提案する。

大北地域の農家は危機的状況にある。「なんとかしなければ」と思う。JA大北は役職員挙げて全農長野とともに、県・市町村・農家と連携して、将来の大北農業を考え、シャインマスカットや白ネギ、アスパラ、ミニトマトなど新しい農産物の導入を積極的に進めないといけない。



全農長野宮澤英文係長から、市場から期待される新農産物の提案説明

宮澤氏 名古屋の市場に3年出張していたが「長野県の農産物の評価は高い」消費者が求め、流通が飛びつく農産物供給を進めてきた農家と長野県の取り組みの成果だと思う。コメは毎年10万トンずつ消費が減少し、酒米農家も30%の生産調整されるなど、新型コロナの影響を受けているが、この基調は長い目でみて続くと考えられる。



「米は村の宝物」と位値づける米作地帯の松川村。村長、議長、農委会長他との意見交換会

日本国内で海拔500m以上の耕地はわずか5%しかない。朝夕が涼しく栄養がいたまず保存される北アルプス山麓地帯にはその特性を生かし、市場や量販店が求める付加価値の高い作物が求められる。リンゴ、インゲン、アスパラやシャインマスカット等は特産として、今後取り組む作物だと提案する。

プロジェクト委員会から

JAあづみのシャインマスカット農場視察



JAあづみのシャインマスカット農場視察
JAあづみのシャインマスカット農場視察
JAあづみのシャインマスカット農場視察

海外より高い日本のコメの価格が農家手取り一六〇〇〇円近くあったものが、二〇〇〇円近く低くなり、コメへの肥料の高騰等生産資材の値上げで、専業米農家の生活は苦しく、大きな岐路に立っている。

コメ(精米)ベースの国際価格(令和2年)

日本米	248円/kg
USA米	100円/kg
中国米	71円/kg
タイ米	58円/kg

(令和2年度長野県農政部調査)
為替レートは国際通貨基金

日本の主食
米価過去にない低迷
コメ+新農産品
検討委員会スタートする。

コメ価格の現況

平成29年(2017年)	15,592円/60kg
令和2年(2020年)	14,522円/60kg
(令和3年は2,000円下落すると予想)	

宮澤敏文県議は、県下どこにもない先駆的目標に取り組む。
米消費量が大幅に減少してきた昭和五十四年、米消費拡大対策室が農水省の中に設置され、国会では議員二五〇名が「米消費拡大・純米酒推進議員連盟」を結成した。その事務局を永年勤めた、宮澤敏文長野県米を考える会長(県議)は米の底力と水田のもつ機能を訴え、一九九六年一〇月三十一日の参議院ウルグアイ特別委員会の参考人の席では「減反政策で信州安曇野から立たなくなつた」水田のもつ多目的機能の重要性を述べてきた。
ルアンダの難民に米粉を送ったり、援助米の導入を提案して、米対策の先駆に立ってきた。
今年になりコロナ禍で千葉県のコシヒカリは9000円台/60kgで流通し、コメ価格は低迷の一途である。宮澤県議は「コメをつくって生活がやっつい」をテーマに、北アルプス山麓や安曇野は「水の里」である。この自然と日本ふるさとの原風景を守らなければと、生産基礎を強化し、産地パワーアップ事業を導入した。市町村の枠を越えて、自然と共生するこの地域特性の振興を図ることが大事である。

